

研修現場から 「JICA研修はどうか？」

①氏名 ②所属 ③担当研修コース名 ④ JICA研修担当年数 ⑤コメント



伊藤 仁さん



中辻 清矩さん

①伊藤 仁
②札幌市建設局土木部工事二課工事三係長
③道路技術コース
④講師担当 2年間(11年度と13年度)
⑤道路の設計施工概論を担当しています。道路整備や施工技術の水準は、各国の社会経済状況等によって大きな違いがありますので、カントリーレポートを聞くなど事前に情報収集を行うようにしています。講義では、技術基準書類や実際の工事書類などを持ち込み、テキストだけでは具体的なイメージがつかめないとされる部分を補足しています。また、こちらからの一方的な説明ではなく、研修生に質問したり、ディスカッションを行うなど、双方向のコミュニケーションで相互理解が深まるように心がけています。研修生の皆さんが札幌に対する良い印象を持って無事に帰国していただくために、少しでもお役に立てればと思って研修に携わっています。

①中辻 清矩
②コースリーダー
(元札幌市教育委員会社会教育部長)
③パレスチナ地方自治体行政コース
パキスタン民主化支援コース
④講師担当 コースリーダーとして3年
⑤このコースの講師や視察する施設のほとんどは札幌市の関係であり、正に札幌市手作りのコースと言えます。各国の地方自治システムは、基本的な理念が同じであっても、歴史・文化・国情などによりその形態は様々であって然るべきものでありましょう。その意味で、我々はあくまでも素材提供の立場にあり、お互いに率直に考え方を披瀝しあって、結果としてそれぞれの実情に応じたシステム作りのお役に立てればと念願しております。緊迫した中での来日にも関わらず、皆さん明るく振る舞っておられ、かえって勇気づけられています。

関心・理解を促進することを目的に平成13年度にHICSで初めて実施されました。本研修の報告書については希望者に無償配布しておりますので国際協力相談コーナー(TEL011-866-8306)にお尋ね下さい。平成14年度についても同様に1月上旬の実施を計画中であり、募集については各教育委員会及びNRC経由で行う予定です。

8. 研修員の学校訪問プログラム

海外からHICSに滞在して北海道で技術移転を受けている研修員たちが学校訪問を行うことにより、若い世代が国際交流から国際協力へと考える機会を提供しています。「総合的な学習」の本格導入に伴い多くの学校からお問い合わせをいただいておりますが、研修員達は日々多忙なスケジュールに従って研修を受けているため、全ての学校のリクエストに応じきれない状況にあり

ます。本プログラムについては、研修員の年間計画を調整し、北海道教育委員会・札幌市教育委員会の了解を得て、北海道国際理解教育研究協議会及び札幌国際理解教育研究会に訪問学校の選定及び取りまとめを依頼しています。



学校訪問プログラムでのひとこま
砂川小学校で児童たちがペルーからの研修員に日本料理を紹介

9. パネル・視聴覚教材の貸出

国際協力やJICAの事業を紹介した各種広報媒体の貸し出しを行っています。パネルには青年海外協力隊員・シニア海外ボランティアの活動現場写真や国際協力フォトコンテスト受賞作品があります。その他視聴覚機材(ビデオ、フォトランゲージキット、開発教育関連冊子等)も用意してあります。



貸出パネルの一例
アフリカのジンバブエで野球指導する青年海外協力隊員

10. サタデーテーリングへの協力

HICSは札幌市交通局の実施する小学生向けスタンプラリーであるサタデーテーリングのチェックポイントのひとつになっています。HICS来訪の小学生たちに国際協力を考える広報資料を配布しています。

11. JICAプラザ札幌

JICAの組織、事業に関する情報を提供するコーナーとしてHICS内に14年度中に「JICAプラザ札幌」を設置する予定です。JICAプラザ札幌では、広報パンフレットであるJICA INFO KITシリーズの提供、JICA事業の案件公示等の情報公開に対応します。

国際協力事業団(JICA) 北海道国際センター(札幌・帯広)

札幌/〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4番25号 TEL: 011-866-8333 www.jica.go.jp/branch/hics
帯広/〒080-2470 帯広市西20条6丁目1-2 TEL: 0155-35-1210 www.jica.go.jp/branch/hico